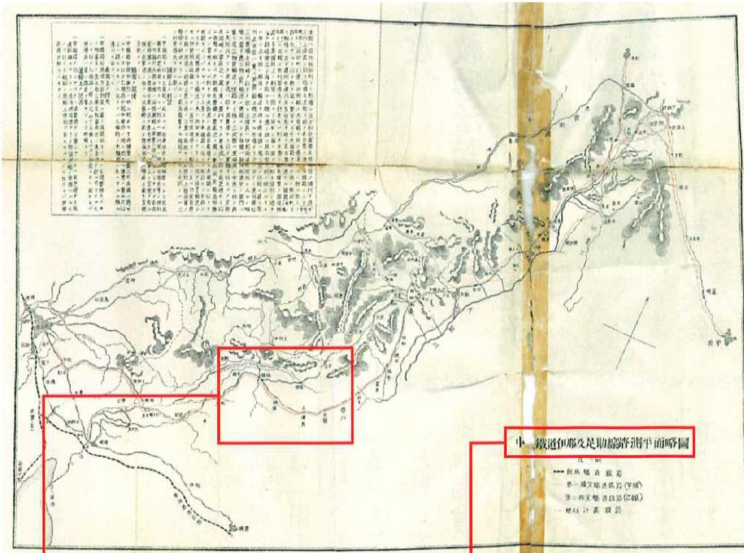


## 郷土館発 鐵道のお話 Ⅱ

「JR中央線が伊那谷を通り、上津貝駅・納庫駅・稲橋駅を経て名古屋に達していたかもしれない！」

これが、今回以降のお話の内容になります。

津具にある文化資料展示センターに中□鐵道伊那及足助線踏測平面略圖なるものがあります。「よくぞ残っていてくれた！」と思える資料です。紙面の都合で大きくして掲載できないので



中□鐵道伊那及足助線踏測平面略圖



「明治十七年頃  
さかんに行われていた」という  
時期のわかる記  
述もありました。  
今回紹介した略  
図もその運動の  
一つの資料と思  
われます。  
次回からは、  
この地図からわ  
かる鉄道誘致運  
動の様子を紐解  
いていきます。  
(奥三河郷土館  
学芸員  
渡邊 俊也)

すが、地図全体は左のようになり  
ます。※□は文字不明

この地図が作られたのは、地  
図に書かれている内容と鉄道建  
設の歴史を照らし合わせてみた  
ところ、明治二十七年(一八九  
四)以前のもので考えられます。  
約百三十年前の物ですが、印刷  
が鮮明なので書かれている内容  
はほぼ読み取ることができます。

### 『中□鐵道(中山鐵道)』

明治時代になり東京都と京都  
を結ぶ鉄道建設の計画が検討さ  
れます。江戸時代の東海道に沿  
う案と中山道に沿う案です。  
結局、東海道に沿う東海道鐵

道線が優先して造られることにな  
りました。中山道に沿うル  
ートの鉄道路線も中山鐵道線と  
して計画が残りました。

そのあと計画修正があり、東  
京(八王子)甲府(岡谷)名古屋  
屋間の鉄道建設が進められるこ  
ととなりました。ここで問題に  
なったのは、岡谷(名古屋)間を、  
伊那谷を通すか、木曾谷を通す  
か、ということでした。

両地域の人たちの鉄道誘致に  
対する思いは強く、市・町・村  
が力を合わせて誘致運動を行っ  
た記録が、阿智村誌、阿南町誌、  
根羽村誌にあり、「明治十七年頃